

文部省選定作品
文化庁優秀映画作品賞受賞
最優秀照明技術賞受賞

伝統工芸の名匠

第49回 毎日映画コンクール
「記録文化映画賞」

十三代 今右衛門
薄墨の美



十三代今泉今右衛門の色絵磁器

映画『薄墨の美』に寄せて

南 邦男

(工芸評論家)

佐賀県のかきもの町有田には、江戸時代の前期から赤絵町という地区が町並を形成している。その由来は、磁器素地に赤・緑・黄などの多彩な上絵をつける業者がこの地区に集められたことによる。現在でも道路の両側には磁器の製造や販売、材料などを扱う業者が軒を並べている。

今泉今右衛門家もこの赤絵町の中ほどにあつて、鍋島藩窯が焼造する色絵磁器、いわゆる「色鍋島」の御用赤絵屋を代々つとめてきた。そして明治以後、今泉家は色鍋島の窯焼きから上絵付まで、分業的工程を一貫して経営する窯元として、その伝統的な様式・技法を受け継いで当代に至っている。

この記録映画『薄墨の美』は、重要無形文化財〈色絵磁器〉の保持者・十三代今泉今右衛門の陶芸家としての人間形成と、作品の制作工程を軸に構成されている。映画のタイトルとなったうすずみは、初期伊万里の染付に用いられた吹墨の手法によるものであるが、これまで薄墨色の色調が伝統的な色鍋島に用いられたことはなかった。吹墨から薄墨へ、十三代今右衛門が開発した濃淡のあるグレーの地色は、草花文や更紗文などの色絵を一層引き立て、新たな深みのある艶(えん)なる美の世界を、つぎつぎとひろげていった。

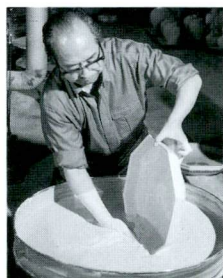
この映画は、十三代今右衛門が先祖から引き継いだ伝統の重みと、作陶家としての個人的な創作意欲とのぶつかり合いを通して、「伝統と創造」、「伝統工芸のあり方」といった大きな課題に 대응しようとしているように見える。



色鍋島技術保存会の工房外景



染付吹墨



染付を済ませた作品の釉がけ



窯づめ(本焼窯)



窯あげ(焼きあがった作品を丹念に点検する)



上絵付け(赤絵)

映画「十三代今右衛門・薄墨の美」を撮り終えて

村山正実

(映画監督)

肥前(佐賀)の有田は日本の色絵磁器の発祥の地で、十三代今泉今右衛門さんの窯は有田の赤絵町にある。

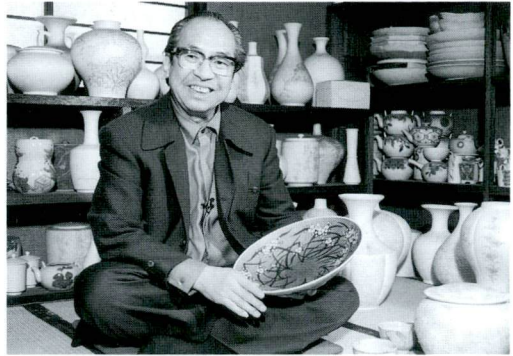
有田町は一本の細長い街道沿いにあり、両側にはいまもたくさんの陶磁器店(窯元)が並んでいる。今泉家の斜め前には明治時代に輸出向けの陶磁器を製造した香蘭社や深川製陶の古い建物もある。この表の通りから一歩狭い曲りくねった路地に入る

と、両側にはトナバイ塀と呼ばれる登り窯の赤く焼けたレンガの塀が所々にあり、また近くには、いまは夏草が覆われているが、天狗谷窯、稗古場窯などの古窯の跡も残っている。桃山時代から江戸時代へ移行した十七世紀のはじめから現代に至る四百年近い歳月、有田はやきものの町としての長い歴史と伝統の中に生きてきた。十三代今泉今右衛門さんの色絵磁器の仕事もこの有田の歴史と伝統の中に生まれてきた。

この映画は、長い伝統をもつ色絵磁器「色鍋島」の窯元に生まれて、いずれは家業を継ぐ運命を背負った十三代今泉今右衛門の、自分の色絵磁器を目指す創作の努力を描いている。父の十二代も、祖父の十一代も、曹祖父の十代も、時代の厳しい変化の中で、それぞれに伝統の革新を企てる。十三代の今右衛門も色鍋島の伝統技術の継承と、作家としての創作との狭間で大いに悩む。鍋島藩主が將軍家や各藩主に贈答用に造らせた色鍋島は、あくまでも美しく品がよい。十三代の今右衛門は、もっとラフで紬(つむぎ)のような美を加えたいと苦心する、その過程を氏の生い立ち、青春とともに描いた。

この映画はいわば、今右衛門さんの内面的な「自分探しの旅」でもあり、その作陶は、伝統の否定ではなく伝統の中に新しさを再発見していく軌跡でもある。勿論同時に映画では、氏が開発した「吹墨」、「薄墨」、「吹重ね」という新しい色絵磁器の創作過程が具体的によく分かるようにも心掛けた。

いつも茶系の地味な上着を身につけ、気さくで、堅苦しいことが嫌いだという今右衛門さんのお人柄。その作品には、若い頃に出会った仏像の「もの静かな」美しさと、初期伊万里の素朴な美しさ、ラフな更紗文への思いや憧れが強く反映されており、いまでも青春時代の思いが創作活動の大きな支えになっている。その若々しく瑞々しいナイーブな感性が今右衛門さんの作品の魅力だと思う。



十三代今泉今右衛門さん

〔十三代今右衛門作品〕



色絵刈茅文大鉢 (S.42)



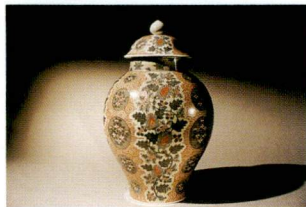
色絵吹墨蕪文花瓶 (S.51)



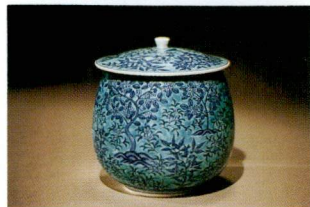
色絵薄墨露草文鉢 (S.56)



色絵吹墨櫻葉文額皿 (S.57)



色絵薄墨珠樹文蓋付瓶 (S.62)



色絵緑地草花更紗文蓋物 (S.62)



色絵吹墨重ね薔薇文額皿 (H.6)



色絵吹墨草花文花瓶 (H.6)

作品名：シリーズ〈伝統工芸の名匠〉

— 十三代今右衛門 —

「薄墨の美」

(35mm/カラー/36分)

企画：(財)ポーラ伝統文化振興財団

製作：(株)桜映画社

監修：南 邦男

製作スタッフ

製作・村山 和雄

脚本監督・村山 正実

撮影・村山 和雄

山屋 恵司

撮影助手・松井美喜夫

今野 聖輝

照明・水村 富雄

録音・堀内 戦治

編集・吉田 栄子

ネガ編集・加納 宗子

選曲・山崎 宏

タイトル・菁 映 社

現像・IMAGICA

語り・白坂 道子

取材協力

東京国立近代美術館

法隆寺/東大寺/中宮寺

有田町歴史民俗資料館

色鍋島今右衛門技術保存会

大八木信昭/小川光三

Photo by T.KUWANO

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル2階
TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597